



OKAWA
木のきもち



大川くろんぼう
大川みどりんぼう
～贈る気持ち～

オール大川で もつと大川を元気にしたい!

地域ブランド推進協議会 木のきもち部会

(インタビュアー：酒見智大さん、龍智尚さん、津崎 繕幸さん、
関光卓さん(プロデューサー/デザイナー))

昨年、商標登録された《木のきもち》。今回の夢追い人は、この木のきもち事業に携わる部会の皆さんにお話を伺いました。

木のきもちとは

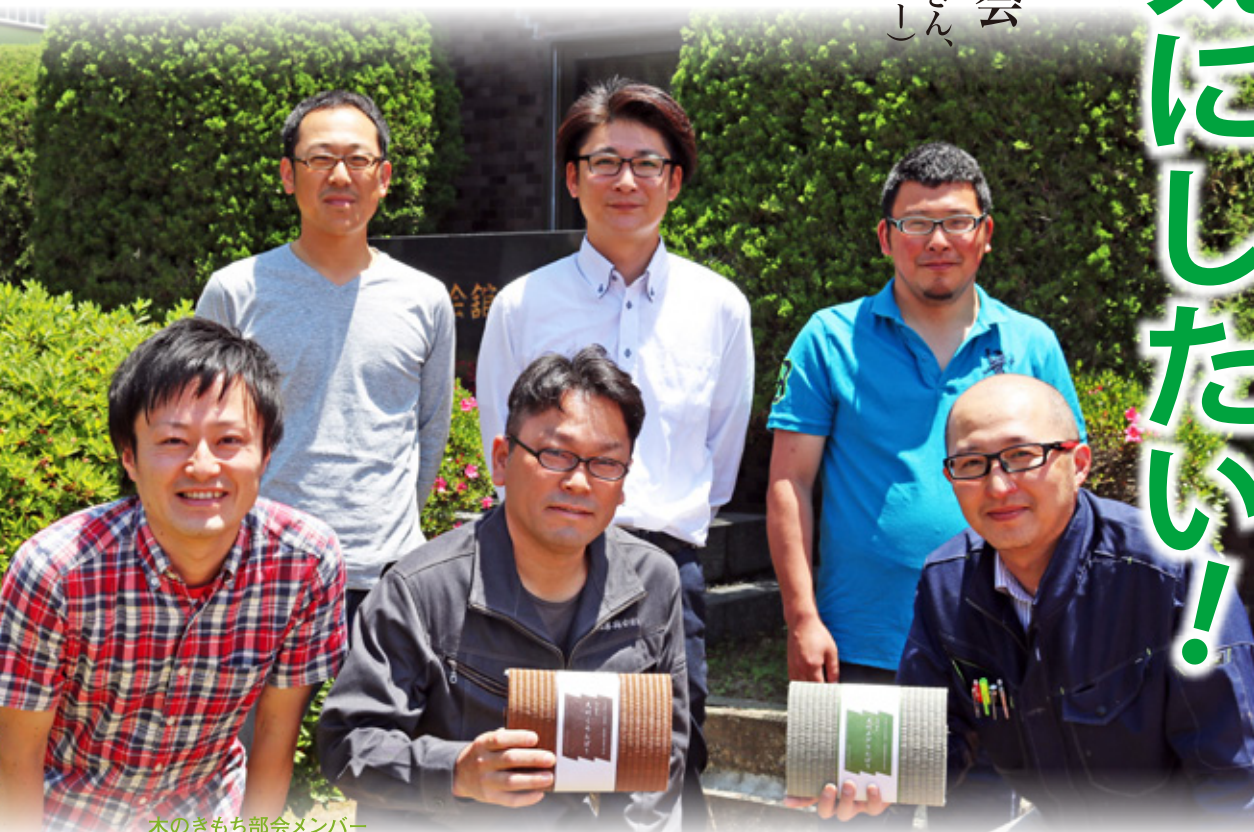
いまから十年前に、大川商工会議所青年部のなかで「どうにかして大川を元気にしたい」「まずは基幹産業の木工を元気にしないといけない」という意見が集まり、特別委員会を設置し活動を始めたのが木のきもち事業の始まり。

現在は大川商工会議所青年部のメンバー、大川商工会議所女性会より出向されている二名、プロデューサー兼デザイナーの関光さん、宮崎建具宮崎さん、ストリングス酒見さんというメンバー構成となっています。

「平成28年度から関光さんに木のきもちのディレクションをお願いしています。以前から面識があったこともありですが、大川をよく知っている方、デザインができる方など様々な条件があがったなかでお願いできる方は関光さんしかいないだろうと」

昨年度には12回の会議を行い、椅子、スツール、神棚、時計、黒棒などを開発されました。今年二月に東京で開催されたギフトショーには、木のきもち部会として参加し、いくつか商品を表示されたとのことでした。またストリングスの酒見さんにデザインをお願いした木のきもちのホームページ(※)も作成されているとのこと。

木のきもち事業で開発された商品のひとつである「大川



木のきもち部会メンバー

(写真：後列左から内藤 大敬さん、津崎 繕幸さん、龍 智之さん
前列左から添島 彰さん、今村 純也さん、酒見 智大さん)



大川テラツアで撮影
写真左より、龍 智尚さん、関光 卓さん（デザイナー）

くろんぼう／大川みどりんぼう」は今年四月にオープンしたばかりの大川テラツアでも販売されています。「普段食べている人からすると黒棒は全国区のお菓子という感覚ですが、実はそうじゃない。全国でも九州北部の七社しか作っていないくて、うち二社が大川にあるんです」
新たな大川土産が作れないかとアイデアを出し合っている際に黒棒の名前が上がったそうで、「その時いいおみやげになる勘が働いた」と関光さんは仰っていました。
「現在は宮古島産の上質な黒糖を特別な配合でブレンドした大川くろんぼう、糖蜜は野草を混ぜて香り豊かに仕上げた大川みどりんぼうの二種類が発売されています」
これからは海苔をはじめとした様々な特産品とのコラボ

「黒棒が持つている味や素材さなどの価値・可能性を存分に引っぱりあげて、大川のおみやげとして堂々と持つていけるようにしたいですね」
また「玄関の椅子」はふるさと納税の返礼品にもなっているとのこと。おしゃれなデザインだけでなく、現在のライフスタイルや使う人のことを考えたアイデアにも注目したいアイテムです。
オール大川で取り組むブランド
商品開発は、関光さんから提案されることもありませんが、メンバーからアイデアを募集



玄関の椅子～いいじばあばへの気持ち～



組子時計
～時を想う気持ち～



木と革の時計I,II
～時を縫う様に大切に作る気持ち～

し、そのなかから商品化していくことも多いそうです。「大川をPRできて、「○○の気持ち」に到着できるようなアイデアを出してくださいと言っています」
ちなみにこの○○の気持ちにまとめていくというのも部会メンバーのアイデア。
またそれと同時に大川にいらつしやる方や関係者だけで成り立つものに限定しているとのことでした。
「ただ作ってPRするだけじゃなく、実際に商品を販売してたくさんの手に渡り、またそこで大川をPRしていくようなものを目指しています。木のきもちは木工だけのブランドではありませんが、木だけにこだわらず、様々な

またこの夢追い人を読んで、自分たちも木のきもち事業に加わりたいと思ったら、ぜひ商工会議所へ連絡してほしいとも話されました。
「大川をPRできる商品や大川よさが伝わる商品、それから大川でこんなことができないか、こんなものが作りたいというアイデアをお持ちの方は、ぜひ参加していただき

観点から大川をPRしていきたいです」
平成28年に本格始動した際、最終的には木のきもちとして30種類くらいの商品ができたらしいという話もされていたとのこと。
「これから作るものだけでなく、既存商品からのセレクトも進めていきたいですね。ブランドイメージやデザインの方向性があるので、すぐに加えることはできませんが、提案していただいたものをきちんと見定め、時には関光さんから手を加えていただきながら増やしていけたらと思っています」
またこの夢追い人を読んで、自分たちも木のきもち事業に加わりたいと思ったら、ぜひ商工会議所へ連絡してほしいとも話されました。
「大川をPRできる商品や大川よさが伝わる商品、それから大川でこんなことができないか、こんなものが作りたいというアイデアをお持ちの方は、ぜひ参加していただき



格子の社
～手を合わせる気持ち～



A スツール
～ちょっと休みたい気持ち～

たいです。業種は問いません」
大川を盛り上げたい！
木のきもち部会としての大きなゴールは、大川を元気にする、盛り上げていくことだと皆さん口をそろえて仰いました。
「大川にあるものを組み合わせさせて大川が元気になるきっかけ、そして家具以外にもオール大川で動けるプロジェクトになっていけばいいなと思っています」
木のきもちをたくさんの方に知ってもらうための広報活動にも積極的に動いていきたいとのこと。
「倉重大川市長も木のきもちを応援してくれています。今後テラツアへの出品、ギフトショーなどへの出展など、大川内外に木のきもち、そして大川をアピールしていきたいです。大川をもっと元気にしたい。そんなメンバーが集まっている事業です。これからも大川を元気にするためのなにかを追求していきたいです」